

情報通信審議会情報通信技術分科会 放送システム委員会 放送事業用システム作業班（第1回） 議事要旨

1 日時

平成19年5月25日（金） 13時30分～15時

2 場所

総務省1101会議室

3 議題

- (1) 作業班の運営方針について
- (2) 作業班の検討の進め方について
- (3) 今後の検討スケジュールについて
- (4) その他

4 出席者（順不同、敬称略）

小林主任（ARIB）、荒井（NTTドコモ）、今井（日本電業工作）、高田（日本民間放送連盟、小倉構成員代理）、加藤（NHK）、川島（FM東京）、小木曾（電気事業連合会）、小松（電波技術協会）、篠田（WOWOW）、菅原（東京放送）、関野（電気興業）、出来（フジテレビジョン）、関（NTT、西川構成員代理）、野路（池上通信機）、樋口（日本電気）、広瀬（東芝）、広谷（日立国際電気）、曲淵（日本無線）、牧野（日本テレビ放送網）、吉野（テレビ朝日）、吉本（テレビ東京）、渡辺（文化放送）

【事務局】布施田、今田、溝上（総務省放送技術課）

5 配付資料

- 資料1-1 第43回情報通信審議会情報通信技術分科会諮問書
- 資料1-2 放送システム委員会構成員
- 資料1-3 放送システム委員会運営方針
- 資料1-4 放送事業用システム作業班運営方針
- 資料1-5 作業班の検討の進め方（案）
- 資料1-6 今後の検討スケジュール
- 参考資料 放送事業用システムの現状等

6 議事概要

総務省放送技術課布施田技術企画官、小林作業班主任の挨拶、構成員の紹介、配付資料の確認が行われた後、以下の議事が行われた。

(1) 作業班の運営方針について

第43回情報通信審議会情報通信技術分科会諮問書(資料1-1)、放送システム委員会構成員(資料1-2)、放送システム委員会運営方針(資料1-3)及び放送事業用システム作業班運営方針(資料1-4)について、事務局から説明が行われた。

運営方針に基づき、小林主任から、主任代理として、広谷構成員の指名が行われた。

(2) 作業班の検討の進め方及び今後の検討スケジュールについて

作業班の検討の進め方(案)(資料1-5)に先だて、参考資料に沿って、本作業班の検討対象について、事務局から説明が行われた後、同案について審議され、了承された。主な意見及び質疑は以下のとおり。

○ 3.4～3.6GHz帯の周波数移行に関しては、平成18年度電波の利用状況調査の評価結果という形で公表されているが、この方針というのは、例えば今年の秋のWRC07での議論といった他の検討要素があり、その上で検討され、最終的には別の明確な形で国の方針として出されるものと考えている。そのため、現在は検討途中段階であると考えているが、この点についてはどういった理解か。(小林主任)

→ 当該帯域についての方針は、今後の検討次第であるといえそうであるが、我が国の現状の方針は今年の3月に公表された平成18年度電波の利用状況調査の評価結果のとおり、今後、同周波数帯は移動業務へ割当てされる方向である。なお、次期改訂の周波数再編アクションプランには、この周波数帯の移行について明記される予定である。また、今年の秋までには周波数割当計画に周波数(3456-3600MHz)の使用期限を盛り込まれる予定。(事務局)

小林主任の指示により、放送システム委員会第6回会合で伊東主査等から出されたコメントが事務局から紹介され、さらに、同コメントは重要なので同会合の議事概要は別途本作業班構成員にも参考配布することし、また、この進め方に沿って効率的に検討作業を進めていくことが確認された。

(3) 今後の検討スケジュールについて

今後の検討スケジュール(資料1-6)について、事務局より説明が行われた。また、次のことが指示、確認された。

○ 事務局は、第2回作業班会合に先立って、十分な報告(案)を審議できるス

- ケジュール・作業管理を行うこと。
- 運営方針に基づくアドホックグループの設置について、UHF帯、SHF（M/N）帯そしてミリ波帯の3つとし、それぞれに、広谷氏、牧野氏、そして加藤氏をリーダーとすること。
 - 作業班のその他の構成員には、5月28日（月）中に参加できるアドホックグループについて事務局あて連絡すること
 - 複数のアドホックグループへの参加を可とし、構成員の属する機関から構成員以外の人への参加も可とすること
 - 事務局は、アドホックグループの構成員リストを翌5月29日（火）中に構成員全員に回報すること。

（4）その他

次回作業班の日程について、事務局より8月1日を予定している旨の連絡が行われた。

以 上